

出水期に備えて「洪水対応演習」を実施！！



立山砂防事務所では、梅雨による出水期を前に土砂災害の発生を想定した洪水対応演習を実施しました。この演習は、土砂災害発生時における事務所の支部体制発令や関係機関への情報伝達、管内の巡視及び災害発生箇所への把握と応急対策・復旧の検討等を行う訓練で、土砂災害が発生した場合に緊急かつ適切な対応を行う事を目的としています。

日時：平成29年 5月12日（金）9：00～17：00

場所：立山砂防事務所（3階災害対策室）

参加者：職員全員（及び一部の関係業者）

演習内容

1. 降雨状況

- ・ 9時00分 富山県中新川郡立山町芦峯寺千寿ヶ原地先の千寿ヶ原観測所において、累計雨量84mm、時間最大雨量28mmを観測。
- ・ 11時00分 千寿ヶ原観測所において、累計雨量161mm、時間最大雨量32mmを観測。以降、降雨なし。

2. 土砂災害の発生状況

- ・ 称名川右支溪奥荒谷（称名第18号床固の上流約50m）において山腹崩壊が発生。
- ・ 崩壊規模は長さ約200m、幅約50m、平均厚さ約10m。崩壊土砂量は約60,000m³と推定。
- ・ 川幅約100mの内、約90mの幅で堆積している。
- ・ 川の流れは一部確保されており、湛水は確認されない。

3. 立山砂防事務所の対応

- ・ 土石流の発生により下流へ被害を与える恐れがあるため、
①関係機関への情報提供 ②土砂堆積箇所の監視 ③応急対策の検討 を実施。
- ・ 崩壊斜面については、ヘリコプターによる上空調査及び地質専門会社による地上からの調査を実施。また、監視カメラ及びワイヤーセンサーによる監視を実施。
- ・ 今後の土砂流出による被害軽減のため、下流の本宮砂防堰堤堆砂敷にて土砂捕捉用のポケット（30,000m³）の掘削を実施。※残りの30,000m³は瀬戸蔵砂防堰堤の堆砂敷で受ける。

＜演習後の反省会での討議内容＞

- ・ 支部での報告時は、班名と時刻をしっかりと伝える。また、本局や関係機関への報告・連絡は、送者及び受者の名前と着信（受信）時刻を必ず確認する。
- ・ 情報の収集や提供にあたっては、「何（誰）のため」の情報なのか目的を明確にする。
- ・ 水谷出張所は庁内放送が聴けないので、FAX漏れないようにする。
- ・ 人員配置については、対策や復旧が長期にわたる場合も想定して計画を立てる。
- ・ 防災情報共有化システム（パソコン入力、画像伝送）については適切に行われていた。



状況報告及び報告内容の確認



北陸地方整備局、関係自治体への情報共有（情報コンセントによる画像伝達）



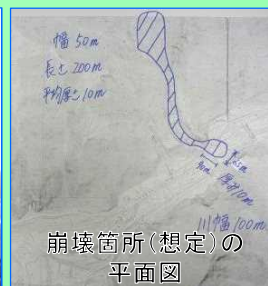
現地状況・巡視方法の確認



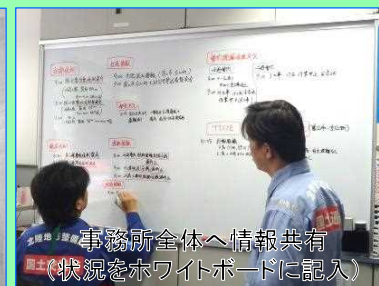
北陸地方整備局全体への情報共有（パソコンによるシステムへの入力）



対策・復旧方法の検討



崩壊箇所（想定）の平面図



事務所全体へ情報共有（状況をホワイトボードに記入）

今回の演習での課題や反省点を討議し、今後の災害対応に反映します。